

生かされている喜び

—問題だらけの社会で—

太田尚子 (キリスト教基盤研究室)

キリスト教基盤研究室とは

キリスト教基盤研究室は、東京 Y W C A が公益財団法人への移行期に入った2010年5月に会員からの要望により新組織の中に設置されました。公益財団法人になっても、Y W C A は公益事業を行うだけではなく、事業を通して Y W C A の目的を果たすのだと、Y W C A の原点に改めて立たされたことで、基盤への関心が高まりました。Y W C A の基盤がキリスト教にあることは変わらず、私たちは歩むべき道を常に聖書に問いながら、平和の種をまき続ける者として、平和と正義の実現のために祈り、働き、活動していこうということです。キリスト教基盤研究室の主な活動として、機関紙にコラム「聖書に学ぶ」を掲載し、毎月第2水曜日にひととき礼拝を、年に1度ともに聖書を読むワークショップを開催しています。また、2017年3月には学習会「カルトの実態とその素顔」、2019年7月には講演会「イスラームを知ろう」を開催しました。

キリスト教基盤ワークショップ報告

「奇跡より大切なあなた」～傷つけ合う社会の中で～

11月29日(金)、東京 Y W C A 会館

ワークショップは7年目です。今回は会員以外の方も多く参加され、少し緊張した雰囲気の中、開会礼拝後に増田琴牧師(日本基督教団経堂緑岡教会)が「ハイ、皆さん、こんにちは!」と躍り出るようにお話を始められると、参加者一同一瞬にして心をわしづかみにされ、琴ワールドに引き込まれました。皆笑顔でリラックスしながらも一言も聞き漏らすまいと集中しています。

導入 ①聖書は正典(カノン)であるが、社会や自分のゆがみに気づき修正するための規範である。2000年前の閉じられた書物ではなく、今を生きる私たちが生活の中で、私たちの物語として読むもの、現実の経験の中で読んでいくもの。②仏教は悟りの宗教(一人で修行する)であるのに対し、キリスト教は「神と人」「人と人」との関係・出会いの宗教である。この2点が前提として語られました。

聖書箇所は使徒言行録 3 章 1～10 節

生まれながらに足の不自由な男が神殿の入り口でペトロとヨハネに物乞いをする。するとペトロとヨハネは「彼をじっと見て」男に「私を見なさい」と言った。この時代、障がいは罪や汚れの結果と考えられ、障がい者は一般の人と区別され、差別されていた。その人に生まれて初めて「わたしとあなた」という人格的な関係が生まれ、彼は「イエス・キリストの名によって」立ち上がり、神を賛美しながら境内に入って行った。人は賛美する存在。被造物であることを喜ぶ存在。神との関係が回復した。

現代社会の課題から

① 現代社会において人間が「商品」として扱われていないか？商品化された人は人とのつながりを見失い、孤立化する。②付加価値ではなく存在価値「いる」「ある」ことを神さまが認めてくださる。③罪とは神と人、あるいは人と人との関係が破れていること。群衆の中の孤独。我が子を虐待する親を世間はバッシングするが、誰にでも可能性がある。社会や人とのつながりがなく、助けてもらう経験がないとどうしたら良いかわからない。④『クララは歩かなくてはいけないの？少女小説にみる死と障害と治癒』（ロイス・キース著藤田真利子訳）立ち上がったクララは賞賛される。立ち上がれない私は？

4 グループに分かれての討議

- ・「何のために生きているのか、生かされているのか」が大きな命題。
- ・付加価値と存在価値について。
- ・虐待はつながれなかった親の苦しみ、つながっていたら守れた命。
- ・弟子の分際で奇跡を行ったの？
- ・「あなた」を大切にしている出会いが求められている。
- ・弱さを認めて、助け合う社会でありたい。

などの意見が活発に出されました。

まとめ 最後に増田牧師から

○信仰とは人間が造ったものを神としない。自分が選択して主体的に生きること。自由意志を売り渡したらカルト。

○罪とはつながりが絶たれていること。付加価値を良しとする方向に押し流される中で、振り返る瞬間があったのではないか？振り返らせてくれるのは出会う人。

○自分を大切にする、近しい人を大切にする。

○ありふれた奇跡が平和の種となるのではないか？

という示唆があり、希望と勇気をいただいて、閉会しました。